

情報化の進展と金融業・日本経済---岡部研究会紹介

金融というプリズムを通してみた経済の研究

情報処理技術（IT）やインターネットの発達は、銀行業に大きな影響を与えています。いま公共料金は、銀行へ行かなくともコンビニエンス・ストアで簡単に支払いができるし、家庭のパーソナル・コンピュータ操作をすれば、居ながらにして色々な代金の支払いができるようになる日も、さほど遠くありません。今後、おそらく五～六年以内には、銀行は隣接業種の進出を受けて現在のイメージと相当変わったものとなり、また銀行と企業の結び付き方も大きく変わるでしょう。このようにテクノロジーの変化が銀行や金融業、そして金融というプリズムを通してみた経済の姿をいかに変えるのか。その解明が、岡部研究会（ゼミ）の狙いです。

こうした研究活動を通して学ぶ知識は、とても貴重です。ただ、そうした知識や情報は必然的に陳腐化し、記憶したことも卒業後は時間とともに忘れていきます。このため、大学教育の成果として永続性を持ち、また真に国際性を持つのは、個別的知識の獲得というよりも、むしろ問題の立て方、論理構成力、そして説得的に提示する力量など、一連の知的スキルの習得にこそある、と私は考えています。優秀ゼミ論文をインターネット上で発表して世間の批判を受けさせる一方、経済学部との間で合同ゼミを設けているのは、こうした成果を試す一つの良い機会を与えるためです。

学生諸君は、現代の金融問題に一点深く切り込む研究を各自が手がけることを通して、こうした力量を身に付けてほしいと私は願っています。

（「慶應義塾大学ガイドブッカー九九八-一九九九」ゼミ紹介、一九九八年五月）